



2026年7月28日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(東証スタンダード・コード 7162)
問合せ先 執行役員 西潟 しのぶ
電話 03-5447-8400

2027年3月期第1四半期連結業績速報値と2026年3月期第1四半期連結業績との 差異見込みにに関するお知らせ

2027年3月期第1四半期の連結業績は、2026年7月31日に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、速報値としてお知らせいたします。なお、本速報値は現時点で当社が合理的と判断した前提に基づくものであり、実際の業績は異なる可能性があります。

この結果、2027年3月期第1四半期(2026年4月1日～2026年6月30日)の業績は、前年同期(2025年4月1日～2025年6月30日)と差異が生じる見込みとなりましたので、お知らせいたします。各セグメントの概要については、7月31日に開示予定の2027年3月期第1四半期決算短信にてお知らせいたします。

記

1. 2027年3月期第1四半期連結業績速報値(2026年4月1日～2026年6月30日)

(単位:百万円)	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
2027年3月期第1四半期 連結業績速報値	6,108	△819	△846	△873
2026年3月期第1四半期 連結業績(実績)	4,389	2	△10	△17
増減率(%)	39.2	—	—	—

※ 当第1四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

電力取引関連事業においては、電力現物先渡取引の価格変動リスクをヘッジする目的で電力先物取引を利用しております。電力現物先渡取引は受渡が完了した時点で損益を計上する一方、電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価を行い損益を計上しているため、電力現物先渡取引に係る損益と電力先物取引に係る損益の計上時期が相違しております。

当第1四半期連結累計期間における、電力現物先渡取引が当第1四半期連結累計期間の受渡にもかかわらず前連結会計年度に計上された電力先物取引に係る損益と、電力現物先渡取引が当第1四半期連結累計期間末を越えて受渡が行われるにもかかわらず当第1四半期連結累計期間に計上された電力先物取引の損益は差し引き△729百万円であり、当第1四半期連結累計期間の損益を実質的に押し下げる要因になっております。

なお、前年同期間は差し引き58百万円損益を実質的に押し上げる要因になっておりました。

営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響

ヘッジ取引に係る損益がヘッジ対象取引と同一期間に
認識されないことによる影響についての詳細説明



2. 2027年3月期第1四半期連結業績速報値と2026年3月期第1四半期連結業績との差異の理由

営業収益は、イラン情勢の緊迫化による原油や天然ガス等の急騰を受けた電力価格の高騰を背景に前年同期比39.2%増加の増収となりました。

損益面では、電力取引関連事業の電力取引においてヘッジ益のみ前連結会計年度に先に計上した格好となった影響等により、営業損失、経常損失となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は873百万円となりました。(P1「※ 当第1四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響」をご参照ください。)

なお、2026年7月17日付で開示した「系統用蓄電池事業の事業権利等及び不動産譲渡、並びに営業利益計上に関するお知らせ」の収益計上は2027年3月期第2四半期となることから、上記速報値には反映されていません。

以上